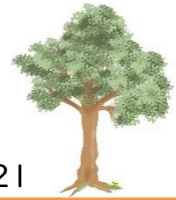




豊小だより

2021.4.21



本年度のスクールプラン（学校経営方針）を作成しました



年度末の学校評価結果を基に、今年度のスクールプラン（学校経営方針）を裏面のとおりに作成しました。昨年度同様、本校が伝統的に目指す児童像として掲げている「考える子」「助け合う子」「たくましい子」を、新しい学習指導要領で求められている「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力」「学びに向かう力、人間性」の観点で身に付けさせたい力を示しています。そして、それぞれの資質・能力を育成するために「何を」「どのように学ぶか」と「子供の発達をどのように支援するか」「実施するために必要なこと」について今年度の取組を示すとともに、取組の成果を測る評価項目を設定しました。感染予防対策による活動の制限はありますが、主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）の中で、子供たち自身が自分の学びや成長を実感し、学ぶ楽しさを味わえるよう、全教職員で教育活動を進めて参ります。保護者や地域の皆様のご理解・ご協力を賜りますよう、よろしく申し上げます。



「幅広い読書活動」については、昨年度末のアンケート調査で「学校や家でよく本（漫画・雑誌を除く）を読んでいる」と回答した児童の割合が75.5%、「親子読書等を通して、お子様の読書への興味・関心が高まった」と回答した保護者の割合が48.9%と低く、今年度、より一層取組を充実させたいと考えました。

そこで、月～木曜日のさわやかタイム（8:05～8:20）に読書活動を行います。また、図書室や学級文庫から借りた本を入れる“本バッグ”を机の横に掛け、いつでも読書ができるようにするとともに、毎月第3日曜日（家庭の日）を迎える週末に家庭学習として読書をするため、学校で借りた本を持ち帰ることにしました。さらに、図書室で借りた本のリストを定期的に持ち帰ります。お子様がどのような本を読んでいるかご覧ください。このような



図書室利用オリエンテーションの様子

取組を通して子供たちの本への興味・関心を高めることにご理解・ご協力をお願いします。ご家庭でも読書について話したり、お子様といっしょに本を読んだり、図書館に出かけたりする機会をもっていただけたらありがたく存じます。



今年度も保護者の皆様には、年度末に評価項目についてアンケートの回答にご協力をお願いします。感染予防対策との両立を図りつつ、できるだけ授業や学校生活の様子を見ていただく機会を多くもちたいと考えています。その一環として本校ホームページの「みのりっ子の学校生活」のページやYouTubeでの限定配信などIT活用も図って参ります。ホームページにはスクールプランや学校だより、いじめ防止基本方針も掲載していますので、こちらもぜひご覧ください。

豊小 HP はこちらから→



HP 内「みのりっ子の学校生活」はこちらから→



令和3年度 福井市豊小学校 スクールプラン

福井市学校教育目標 地域に根ざす「学びの一貫性」

「系統性のある学び」と「地域に根ざした学び」の2軸の中で、一貫性をもった学びを4ステップ(基礎期・拡大期・充実期・発展期)に応じてスパイラルに進化させることで、子供たち一人一人が未来を拓く力を身に付けることを目指す。

そのため、①地域との取組の目的や子供に付けたい力と各教科等の目標とのつながりを重視するとともに、②発達段階に応じた系統性のある学びとなるようなつながりを図ることで、「授業づくり」「夢を育む生き方教育」「気になる子供の支援」を充実させていく。



子供の願い	保護者の願い	地域の願い
【こんな学校に】 ・元気で明るく笑顔いっぱい楽しい学校 ・明るい挨拶が出来る学校 ・助け合い、思いやりのある学校 ・いじめや差別がなく、個性を認め合える学校 ・規律正しくけじめのある学校 ・学び合い、高め合える学校	【こんな子に】 ・人の気持ちを理解できる子に ・人のために行動できる子に ・目標に向かって努力する子に ・自分の力で困難を乗り越えられる子に ・心身共に健康な子に ・自分らしさを大切にできる子	【こんな地域との連携を】 ・地域を知り、誇りに思う心をもつ ・地域の自然(八幡山)・文化(歴史)に親しむ活動 ・児童・保護者と共に行うリサイクル活動や川川浄化活動 ・学校行事と連携した防災訓練 ・子育て世代のネットワークによる人材育成

教育目標 豊かな心をもち、自己実現を図ろうと、たくましく生きる子の育成

研究主題 自己変容を自覚できる学びをつなぐカリキュラムの創造

◎は今年度の重点項目 ※到達目標80%

目指す児童像	何ができるようになるか(資質・能力)	何を学ぶか(特色ある教育課程)	どのように学ぶか	評価項目		
				児童	保護者	教職員
考える子 協働し課題を見つめ、探究する子	知 学ぶ価値を理解し、課題探究の見通しをもつことができる。	◎主体的な学習	幅広い読書活動 いつでも読書活動ができるような環境づくりと家庭での読書活動の推奨に努める。	学校や家でよく本(漫画・雑誌を除く)を読んでいる。	家庭での読書活動によって、お子様の本の興味・関心を高めることができた。	週1回以上の図書室利用、家庭での読書推進の取組を行った。
	思 考えを伝え合い、整理して、自分の考えを再構成することができる。		NIE学習 社会現象や問題に関心をもち、向き合おうとする態度を育てる。	新聞やテレビなどでほぼ毎日ニュースを見ている。	お子様は、新聞やニュースを見たり聞いたりして社会への関心をもっている。	新聞やニュースを取り上げた指導を継続的に行った。
助け合う子 つながりを大切にする子	知 他者と協働することの意義や認め合うこと、違いを受け入れることの必要性を理解する。	◎人権学習	交流学習 児童会活動や学級活動を通して、自己有用感を味わわせたり、思いやりの心を育てたりする。	みんなで何かをするのは楽しい。	お子様は、他者に対する思いやりの心が育っている。	児童がくすのき活動や学級活動を通して学んだことを実感できるよう、指導を工夫した。
	思 意思決定する、話し合う、合意形成することができる。		ネット利用や安全に関する学習 家庭や外部機関と連携し、スマートルールや情報モラル、登下校等の安全について考える機会をもつ。	道徳科や学級活動における話し合い活動やエンカウンター等の活動を通して、他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養う。	道徳の時間には考えを深めることができる。 自分はいじめを見たら、大人の人に知らせたり、とめたりすることができる。	本校は、いじめの未然防止や早期発見・解決に努めている。
たくましい子 めあてをもち、粘り強く取り組む子	知 ルールやマナーを守ることの意義や健康・安全に生活する方法を理解する。	◎保健学習	ネット利用や安全に関する学習 家庭や外部機関と連携し、スマートルールや情報モラル、登下校等の安全について考える機会をもつ。	みのりっすスマートルールを守っている。	みのりっすスマートルールについてお子様と内容や実践状況について話し合っている。	ネット利用や安全等、危険から身を守ることについて、学校全体で計画的に指導することができた。
	思 めあてを立てて実行し、成果や課題を見いだして、解決する方法を考え、再度実行することができる。		保健学習 保健指導や体育の授業等において、自己の健康・体力を管理する方法を身に付けさせる。	健康な生活を送るために、手洗いや体力づくり、早寝早起きなど、自分から進んで行った。	お子様は、健康に気を付け、積極的に体力づくりに励んでいる。	児童が自ら健康に気を付け、体力向上を図るよう、継続的な指導を行った。
学 より健康・安全に生活していこうと取組を継続することができる。				交通安全や不審者への対応や交通安全など安全面について適切に指導している。		

知:知識・技能
思:思考力・判断力・表現力等
学:学びに向かう力・人間性等



実施するための何が必要か	項目	具体的取組	評価項目		
			児童	保護者	教職員
子供の発達をどのように支援するか	◎個に応じた指導	個に応じためあてが達成できるよう、一人一人の良さや成長を認め、伸ばす学習評価を実施する。	従来の夢や目指す目標を持っている。	お子様の将来の夢や目指す目標について、家族で話すことがよくある。	本校は、児童が夢や目標をもち、その実現に向けて努力するよう、キャリア教育に力を入れている。
		自分には、よいところがあると思う。	自分には、よいところがあると思う。	学校は、子供たち一人一人を大切に、温かく指導している。	本校は、一人一人の良さや成長を児童自身が自覚できるような振り返りの場を設け、発達段階や個に応じた授業づくりに、熱心に取り組んでいる。
		授業がよく分かる。	授業がよく分かる。	我が子は学校生活を楽しくており友人関係も良好である。	本校は、関係機関と連携をとったり、校内で情報を共有したりして、気になる児童に十分な支援を行っている。
実施するための何が必要か	園小接続推進及び中学校区教育	園・小・中の連続した学びを実現できるように、カリキュラムの共通理解や丁寧な移行支援を図る。	木田小、明倫中との交流掲示板をよく見ている。	本校は、園や中学校と連携して教育活動を進めている。	本校は、中学校区として目指す子供の姿の実現に向けて取り組んでいる。
	地域貢献	「豊地区まちづくりビジョン」をカリキュラムに取り入れ、地域の学習素材・人材の活用を図り、地域に愛着と誇りをもたせる。	地域や社会をよくすることに興味をもち、何をすべきかを考えることがある。*	お子様と地域のことについて話すことがよくある。	生活科や総合的な学習の時間、特別活動等で、児童が地域とのつながりを強めることができるよう指導を工夫することができた。
	家庭との連携	教育活動の情報をネット等で発信し、家庭・地域の理解を得ることができるよう、双方のつながりを強化する。	家の人に学校で学習したことをよく話す。	学校は、「PTA絵画」「懇談会」「学校だより・学年だより」等を通して、保護者に教育方針や教育内容を適切に伝えている。	授業公開や保護者ボランティアの活用、便りやHPを通して学校での取組を積極的に発信した。
	働き方改革	教職員一人一人が有効性のある業務改善策を提案・実行し、改善目標の達成を図る。	先生は授業内容を一生懸命教えてくれる。	教職員定時退庁日をはじめとする働き方改革の取組を理解できる。	児童の様子や指導について保護者と共通理解を図るよう努めた。 自分で勤務時間を管理し、業務削減や効率化を図る新しい取組の一つ以上を行った。

*は、高学年の評価規準